

心音こころね

季刊誌「こころね」 第2号

KOKORONE

大分循環器病院広報紙

[こころね]



2011.
April

Vol. 2



**東日本大地震でお亡くなりになつた方の御冥福を
お祈りしますと共に、謹んでお悔やみ申し上げます。
また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。**

あき みつ ただ ふみ
大分循環器病院院長 秋満 忠郁

3月11日午後2時48分に発生した宮城県北部震度7の地震は未曽有の事態を引き起こしており、その惨状には言葉も出ません。

日本観測史上最大規模の巨大地震、100年に一度という津波、そして原子力発電所の破綻と、まさに国難とも言える地震と思います。

現地での救難活動やインフラの維持・回復のために自らの危険を顧みず尽力されている自衛隊、消防隊、原子力発電所の作業員等の専門家の方々には心から敬意を表したいと思います。そして、我々の仲間であるこの地域の医療従事者の皆様には、御自身も被害を受けられた方も大勢いらっしゃるでしょうし、御自身の御家族のことだけでなく医療従事者として患者さまの治療にも当たらなければならず、しかも薬剤や医療機材が不足しているという厳しい状況下であり、その御苦労を思うと、同業のものとして本当に心が痛みます。

被災された地域においては経験したことのない大混乱にも関わらず、秩序も乱れず被災者同士が献身的に助け合っている姿を報道で見ると、海外からも称賛されていますが、“日本人の気質として「献身」や「我慢」が脈々と受け継がれているのだ”と同じ日本人として大変誇りに思います。

この難局に対して当院としても職員全体が何か支援を行いたいという気持ちが強く、現時点では義援金や物資を送ることぐらいしかできませんが、今後も何か貢献できることはないかしっかりとと考え尽力していきたいと思います。

今後の復興は長く厳しい道のりだと思われますが、太平洋戦争後の焼け野原から戦後という新しい時代を創り、奇跡と言われる高度経済成長を成し遂げた日本であり日本人ですから、日本人皆で力を合わせればきっと成し遂げられると信じています。

被災地における震災からの一日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。

「第32回九州手の外科研究会」を開催して

うちだ かずひろ
副院長 内田 和宏

平成23年2月5日(土)に大分県医師会館にて第32回九州手の外科研究会を開催致しました。本研究会が大分で開催されるのは3度目、11年ぶりになります。これまで研究会は大学ならびに大病院が主催してきた経緯があります。今回は当院整形外科の私が会長をさせて頂きまして、非常に名誉なことあります。しかし、当院のみでの開催は困難でしたので、大分大学医学部整形外科のご協力をお願いし、事務局を担当して頂きました。

まず「手の外科」とは人体のなかで、非常に緻密で纖細な動きをする手の障害・ケガやしづれなどを診断し、治療を行う特殊な外科です。この手の外科の実践的な臨床研究の発表を主に行う研究会になります。「研究会」である所以は学会にはない、手の外科の細かい分野についてまで十分に議論をするからです。

従いまして、参加者の多くは手の外科を専門とする整形外科・形成外科の医師であり、手のリハビリに携わるハンドセラピストの参加者もありました。

広島大学名誉教授の生田義和先生に「手の外科におけるリスクマネージメント」について特別講演をして頂きました。会場に入りきれないくらいの受講者で、長年の先生の臨床経験をもとにお話しをされ、大変感銘を受けました。

さらに特別企画として「手の外科の佳き指導者が答える症例討論」を行いました。座長を麻生整形外科クリニックの麻生邦一先生にお願いし、よく見かける疾患について、手の外科医の大先輩の本音を聞くことができ、とても参考になりました。

朝9時から夜の7時半まで県医師会館にこもり、



「内田会長、研究会の挨拶」

みっちりと勉強・討論を行い、「手の外科」で熱くなつた一日でした。参加者も昨年より30名も多い154名で、大変盛況でした。

本会が成功のうちに終わりましたのは、会に協力してくださいました皆様のおかげであると実感致しました。事務局を担当して頂きました大分大学医学部整形外科の先生方・事務の方々、当日手伝って頂いた各企業の皆様及び職員に厚く御礼を申し上げます。



「会場内は手の外科で熱気ムンムン」



「特別講演の生田先生に感謝状を贈呈」

院内研究発表会について

2月12日(土)の午後より第3回大分循環器病院研究発表会が開催されました。

この発表会は平成21年から始まったもので、当院の職員がそれぞれの専門分野の研究調査を行って、その成果を発表する会となっています。

今年もその専門性あふれる発表が行われ、意見や質問が飛び交い、活気あふれる会となりました。

今後ともこの研究発表を続けることで、みなさまにその成果をフィードバックし、地域医療に貢献できる病院づくりを目指していきたいと思います。



「座長・演者のみなさんと…」

新任ドクター紹介



循環器科
た わら かつのり
田原 功道

4月1日付けで大分医療センターより着任しました。

モットー:一生懸命

趣味:ゴルフ・ドライブ

座右の銘:塵もつむれば山となる

今、一番したいこと:ゴルフ旅行

Dr.になった理由:幼少期、病弱だったから

Dr.になっていなかつたら:サラリーマン

患者さまへ一言:至らない点も多々あると思いま
すが、よろしくお願ひします

♪季節の食材コラム♪

『桜餅』

もりさこ ひろみ
管理栄養士 森迫 浩美



春のお菓子といえば桜餅を思い浮かべる人も多いのではないでしょうか。

この桜餅は、大きく分けて関東風と関西風の二種類に分類されます。

関東風は長命寺（ちょうめいじ）とよばれ、小麦粉や白玉粉の生地を焼いて餡で包んだクレープ状のも

の。関西風は道明寺（どうみょうじ）とよばれ、道明寺粉を蒸して作った生地で、餡を大福のように包んだものです。

桜餅とひとことで言っても、関東風と関西風ではかなり違います。

しかし、どちらにも共通するのは桜の葉で巻かれてあるということ。葉がやわらかく、毛が少ない大島桜を塩漬けにして使用します。塩漬けにすることで、あの桜餅の独特の芳香成分がうまれます。これは「ワマリン」という成分ですが、肝毒性があるため、多量に食べる場合は注意が必要です。



医療連携室の開設のお知らせ

当院では、地域の医療機関や施設の方々と、より一層の連携を深め、患者様やご家族が安心して治療や療養が受けられるように、平成23年2月より、医療連携室を開設いたしました。

皆様のご指導・ご鞭撻のもと、円滑な連携と、地域に根差した信頼される病院を目指し、努力してまいります。何かと不備な点もあるかと存じますが、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

主な業務内容

- ・患者様の紹介窓口
- ・紹介先・紹介元機関との連絡調整
- ・退院支援
- ・患者様からの相談業務

など

◆医療連携室 担当者◆



室長(看護師兼任)
姫野輝和子

医師
首藤 能弘

医療ソーシャルワーカー
足立 真美

事務
神田 佳彦
阿南 哲生

◆患者様へ◆

医療ソーシャルワーカーが入院・外来を問わず、様々な相談を承ります。

たとえば…

- ・介護が必要になったがどうしていいかわからない
- ・医療費について心配
- ・退院後の方が不安
- ・社会福祉、社会保障制度について知りたい 等…

病気や事故にあうことを見越して生活している人は少ないとおもいます。医療ソーシャルワーカーは、病気や怪我、障害により患者様やご家族が抱える様々な問題に対して、解決に向けてお手伝いをさせていただきます。「どこに相談したらよいかわからない…」といった場合も、どうぞお気軽にお声かけ下さい。相談は無料です。相談についての秘密は守ります。

【連絡先】

大分循環器病院 医療連携室

TEL: 097-532-1111(代表)
FAX: 097-534-8900(代表)

編集後記

3月11日に日本は大震災によって大変な被害を受けました。今回の件で防災に対する意識をみなさんも強く持たれたのではないかでしょうか。最低限の災害用荷物を準備したり、家族で避難時の集合場所を決めたりしておいた方がいいかもしれませんですね。被災地につきましては、1日も早い復興を願うとともに、今私達に何ができるのかを今一度、考えていくたいと思います。

医療法人 愛寿会

 大分循環器病院
Oita Cardiovascular Hospital

〒870-0036大分市寿町27番1
TEL 097-532-1111(代表)
ホームページ:<http://www.oita-junkanki.jp/>

読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より充実した「こころね」を目指します。

ご意見・ご要望は、FAX:097-534-8900又はE-mail:jimu@oita-junkanki.jpまでお寄せ下さい。